

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000678		
法人名	有限会社 ホープ		
事業所名	グループホーム はなぞの		
所在地	紋別市花園町3丁目7番20号		
自己評価作成日	令和3年3月15日	評価結果市町村受理日	令和3年5月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成29年11月よりPDCAサイクルによるホームの改善・向上を目指し3年が経過。「紋別のグループホームづくり」を目指し、「スキルアップを目指す職員づくり」とした目標を今年度より「ONE TEAMによる業務の推進と、具体的行動手段として①明るい職場づくり ②コミュニケーションの活性化 ③信頼関係の構築 ④ほうれんそうの徹底 ⑤職員個々の目標達成としている。また、令和2年3月より新たな人材確保として外国人技能実習生2名(いずれもインドネシア人女性)を介護職員として採用。外国人技能実習生が職場に入ることにより職場の雰囲気を含めいい方向に進んでいる。今後とも外国人の介護職員を増員していくことを検討している。

コロナ禍でのホーム運営に求められるものは何か。
入居者様が笑顔で楽しく暮らして頂くことでないか。そのためには何が必要なのか？
明るい職場には必ず笑いがある。職員が常に笑顔でいることが入居者様の笑顔を引き出すことができる。
新たな職員構成の下「明るい職場づくり」を推進していくものである。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0175000678-00&Se
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和3年4月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「一人ひとりが主役で居心地が良く、お互いがお互いを支え合う暮らしを送ります。笑顔を大切に家庭的な雰囲気を作ります。花を植え、野菜を作り、心癒される生活を目指します」と掲げた開設からの理念をもとに利用者の心を見つめ寄り添い楽しい生活が出来るよう日々改善に取り組んでいます。平成29年からの改善に向けた取り組みをバージョンアップさせ、さらに上を(より深く)目指したグループホーム創りに努めています。令和2年の本年度は新型コロナウイルスの影響でほとんどの交流事業が実施されず外部との接触や刺激がない生活の中で施設長、管理者、職員一同は、利用者の「笑顔」をキーワードに寄り添う介護を目指しています。その為に「紋別のグループホームづくり」を目的にスキルアップを目指す職員を作り目標にし、業務の統一化、信頼関係の構築を目指したPDCAサイクル実施を行っています。結果として職員の意識やモチベーションは向上し信頼関係が築かれ利用者の穏やかな生活が営まれています。外国人技能実習生の採用は相乗効果があり相照らす鏡として職員全員が同じ方向を向いた介護を心掛け、明るい職場には笑いがあり、職員の笑顔が利用者の笑顔に繋がり、安らぎがあり、穏やかな生活が出来て家族からも安心され、信頼関係が構築されています。職員全員は個人目標を決めて向上に取り組んでおり、その中でONE TEAMで進んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない ○ 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内に理念を掲示し、管理者・職員は、その理念を共有し実践に繋げている。	理念は事務室、リビングに掲示している他通信にも掲載し、周知しています。新人研修は施設長によりオリエンテーションが行われ、さらに理念に基づいてユニット目標、個人目標を作成し、実践できるように努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設長が町内会の班長を務め、町内会長は運営推進会議の委員に就任。町内会行事及びホーム行事等での地域住民と利用者さんの交流を促進している。	町内会とは役員就任や運営推進会議への協力を得ており、相互の交流が行われていたが、それぞれの行事は新型コロナウイルス感染症(以後コロナ禍)の影響で中止されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者介護、認知症介護の相談事業所として窓口を開設している他、「認知症カフェ事業」や地域住民との交流を通して認知症への理解活動を展開している。但し令和2年度はコロナ禍で活動が停止状態となっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催。そこでの意見要望等をサービス向上に活かしている。但し、コロナ禍で令和2年3月から運営推進会議は開催出来ていない。	運営推進会議は2か月ごとに、利用者家族、町内会役員、行政担当者、地域包括、市内各グループホーム関係者等の出席を得て開催されており、活発な意見を得て運営、サービス向上に活かしていますが、現在はコロナ禍で書面会議で行っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議委員に就任して頂いているほか、日常的に連絡を取り合い協力関係を築いている。	行政担当者とは報告書提出や介護保険法の解釈、コロナワクチンの接種等で常に緊密に連絡を取り、意思の疎通を図りながら協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のスタッフ会議で身体拘束の有無の確認や研修を行っており、その結果についても「身体的拘束等の適正化を検討する委員会(運営推進会議メンバー)」に報告している。	身体拘束廃止に向けては事業所内に施設長を委員長に検討委員会を設置してユニット会議でのカンファレンスで内容を検証しており、現在、言葉の問題や鈴等の鳴り物使用が拘束に当たるかの検証をしています。また、介護保険法の適正化のための委員会は運営推進会議を活用しており毎回報告し適切な介護が出来るように取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、スタッフ会議で虐待行為の有無確認や研修を行い、虐待防止に務めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している利用者がおり、後見人である弁護士を通して制度の理解に務めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前そして入居契約時に契約内容を説明し、納得頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望については日常の行動或は会話からまたご家族からの要望はご家族来訪の際の会話などを通してその把握に務めスタッフ会議で検討し運営に反映させており、はなその通信等で周知を図っている。	利用者、家族の意見や要望は日常の会話の中や面会時に把握するように努めています。利用料は、なるべく持参して頂き面会する機会を多くしています。コロナ禍の現在は事務所のアクリル板越しに面会できるよう取り組んでいます。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の全体会議、スタッフ会議、職員の個別面談等で聞く機会を設け、反映させている。	PDCAサイクルで職員の意識変革、向上に取り組んでおり成果が表れています。組織改革も同時に行われ管理者、主任、リーダーの流れの中で報・連・相を徹底して取り組んでいます。施設長により個人面談が行われ職場環境や就労意欲向上を図っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長が年2回職員の個別面談を行い、労働条件をはじめ職場環境に対する不満や要望を聞き取り、その改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「紋別一のグループホーム」を目指し、ONE TEAMによる業務の推進をPDCA方式により実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の代表者及び施設長と日々連絡を取り合いさまざまな課題について検討協議を行うなどサービス向上の取り組みを推進している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査や入所当初に本人からの要望や不安に思っていることを聞くなど、安心確保のための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人との信頼関係構築と同様に事前調査や入所当初に話を伺い、その対応方法等を話すなどして信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時から、ご本人が満足できるように、ご家族とも連携を取りながら必要な支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ともに食事をし、会話を持ち、簡単な作業や一緒に散歩するなど、生活を共にする関係を築くように務めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には入所後も連携と協力が必要であること理解頂き、家族との絆を大切にされた支援に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親せきの面会や電話は自由であり、馴染みの方々との関係が途切れないように務めている。	コロナ禍で友人の面会は中止していますが、携帯電話で話をする等、これまでの関係を継続した支援に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の信頼関係に向け、さまざまな支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じ支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より本人の話に耳を傾けたり、モニタリングによる希望や意向の把握に努めている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望は、日常会話や、ICFシートにより、利用者の生活機能や意思確認の中で把握し実現できるように努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り生活歴や暮らし方、生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況を記録し、暮らし方、心身状態、残存能力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを基にアセスメントを行い職員間で検討協議をし、ご家族の意見も取り入れた介護計画を作成している。	介護計画は毎月のユニット会議の中でカンファレンスを行い、基本的には目標設定期間の6か月ごとに見直しを行っており、利用者、家族の要望を反映し現状に即した計画作成とサービス提供が出来るように取り組んでいます。	毎日の生活記録に介護計画により行っているサービス提供の様子等の記載で見直しに繋げる工夫を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの状況、水分量、排泄、体重等を記録しその情報共有と介護計画見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者個々人に対し、柔軟な支援やサービスの多機能化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域イベント、町内会行事への参加や訪れる実習生との交流などにより日々の暮らしを楽しむことができるよう支援している。但し令和2年度においてはコロナの影響でその機会を失っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々人のかかりつけの医療機関で受診し、医師との信頼関係を築くよう努めている。訪問医療を実施中で16名の入居者の方が対象となっている。	医療機関への受診は現在ほとんどの利用者は訪問診療で行っています。かかりつけ医への受診は管理者が対応しており、また、週に一度、24時間オンコール可能な訪問看護師により健康管理が行われています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護職員との連携と情報の共有により適切な受診がなされるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報を的確に伝え、入院中も状態の把握と病院関係者との相談を深めるなど、良好な関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時の対応や終末期のあり方については地域特性を含めてご家族に説明し、理解を頂いている。	重度化した場合や終末期の在り方については契約時に重度化した場合の対応にかかわる指針で事業所の方針を説明し、出来る限りの対応を行う旨理解を得ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備えたAEDの扱いを含めた応急手当や初期対応の訓練を行い実践力の向上に努めている。令和2年度救急救命講習会を実施する予定でいながコロナによって中止となっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防総合訓練と地震を想定した机上訓練も行っている。また防災計画に基づく物資の備蓄についても順次整備している。	災害避難訓練は年2回火災による夜間想定避難訓練と地震想定の上訓練に取り組んでいます。その他寒さ対策や備蓄品等ポータブルストーブ、ガスコンロを順次整備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ会議において職員それぞれが検証し、入居者のみなさんの人格の尊重やプライバシーを損ねない言葉かけが出来るように努めている。	一人ひとりの人格やプライバシーを損ねない対応が出来るように毎月のユニット会議や日常業務の中で管理者が指導しています。呼称は名前や愛称等、利用者、家族の希望に沿った対応に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者のみなさんと常にコミュニケーションを図り、入居者個々人の思いや希望を把握し、入居者さん自らそのことを表したり、決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先することなく、一人ひとりのペースを大切に、日々自由に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装が出来るよう支援している。また2ヶ月に1度、美容師にカットを依頼するなど身だしなみとおしゃれを支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中も声掛けをし楽しい雰囲気です。食事ができるよう支援している他、食事の準備や後片づけも手伝って頂いている。	二種類の献立を作成し一月交代で調理しています。季節の行事や誕生日には特別食を用意しています。お寿司の出張寿司サービスやバイキングと楽しい食事が出来るように取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の食事メニュー作成時にはバランスの取れた食事内容に心掛けている他、食事、水分はチェック表を用いて調整し、毎月1回体重測定を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。また、夜間は「入れ歯をはずし水につけ、週2回は洗浄剤を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄を第1に、一人ひとりの排泄パターンを把握して声掛けや誘導を行いながら自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりの排泄記録を取り習慣や行動パターン、間隔を把握して様子を見ながら声掛けし、出来るだけトイレでの排泄が出来る様に支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動を取り入れ予防に努めているが、必要時には処方された便秘薬を用いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人の希望に合わせた日にちや時間での実施は職員不足や経済的側面から困難であるが、週2回、曜日や時間帯を決め実施することを原則にするも、状況に応じた対応を行っている。	毎週2回入浴を基本としその日の状況や状態を考慮して取り組んでいます。介助は利用者に合わせて行い、入浴剤を使う時もあり楽しい入浴になるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は不必要な入室を避け、照明・室温に配慮している。また、個人によって昼寝をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人の生活記録にファイルし、いつでも職員が確認できるようにしている。服薬による症状の変化が確認された時は、直ちに管理者に報告し対応することとしている。また誤薬ゼロを目指し職員全員が細心の注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力に合わせ手伝等を行って頂いている。 また、各種行事への参加、外食、散歩など日々の生活に変化をもたせ気分転換等を支援しているが、令和2年はコロナの影響で行事の参加、外食は皆無となっている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	認知機能の低下により本人からの希望はないが、散歩や花植え、そして家族・地域の人々の協力を得て各種行事への参加を支援している。 しかし令和2年はコロナの影響で各種行事の参加は皆無となっている。	今年度はコロナ禍の中で、グループホーム内での行事がほとんどであり外出は少なくなっていますが、近隣公園で桜見学や庭の花壇のチューリップを楽しんでいます。天候が良い日には散歩や日光浴で外気にふれ気分転換に取り組んでいます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はホームで管理しており入居者のみなさんが所持することはないが、買い物等での所持や支払については支援をしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは自由で、特に手紙については書くことも含め支援をしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は常に清潔を保持し、フローアには季節を感じる事が出来る装飾に心掛けている。	リビング等の共用空間にはコロナ対策で大型の加湿器を2台導入し対策を取っています。食卓とは別に寛げる場所にソファを用意しており、居心地よく生活できるように配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを配置し、気の合う者同士談笑したりTVを見たり出来るよう工夫している。また一人になりたい時には自室に行ったりと、自由に過ごして頂いている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみの物を持参して頂くなど、居心地よく過ごせるよう配慮している。	クローゼット、ベットが設置され、筆筒や椅子等の家具を自宅から持参して配置し、壁には家族の写真や絵を飾り寛いで生活できるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ること、わかることを把握し、必要以上の介助は行わず、自立した生活が送れるように見守り支援をしている。			